

## 『心、身体、精神』-Sense through Mind, Body, and Spirit-

SOSAC\_1 -光- 安田千絵

2008年1月26日-4月13日まで開催された『ART DIVERSEUM 草間彌生展』では、当館のメインコレクションである草間彌生氏の作品を通し、美術館をメイン会場に、2棟の高齢者施設を加えた全3会場を併せ、一つの企画として構成しました。2008年度、ART DIVERSEUMの新たな試みとして、2008年8月に新たにオープンする医療施設 SOSAC（外旭川クリニック）では、5名のアーティストがコミッション・ワークを手掛けます。フォーエバー現代美術館ではその内3名のアーティストと各作品に関連する草間氏の作品を半年間に渡るシリーズとして3つの要素、『Mind（心）、Body（身体）、Spirit（精神）』に基づいて紹介します。

現在、私たちの社会・生活・文化は、デジタルネットワークやITの浸透などにより様々に変容しています。インターネット、携帯電話の急速な普及は、時間やキョリに対する感覚、また、空間やリアリティーといった概念までも揺るがしています。デジタルなツールを用いることで、遠い見知らぬ国についてさえいつでも手に取るように”知る”ことができ、どんな場所や過去で起きた出来事も目の前で再現可能といっても過言ではないかもしれません。時間軸は一方向ではなく、地理的なキョリと感覚的な遠ささえも一致しなくなっています。超高速で、ある種異様な世界に、人の心、脳、身体は乖離してしまうかのようです。そのような時代において、目の前の事象をアナログな身体や感覚を通して捉え、独自の視点を通して提示するのがアーティストであり、人間の心や身体、そして精神が本来持つ感覚を呼び覚ますことこそ、アートの機能かもしれません。

今シリーズで紹介する作品には、自然の風景や日常の事物をアーティストの心、身体、そして精神で捉えた世界が表現されています。それぞれの作品を目の前に、最初はただ作品の外側から内側を覗くだけかもしれません。しかし、やがてアーティストと同じ空間に立ち、内部空間を共に体験し始め、空気、音、香り、色彩、そして作品に包まれることで、その中に確かに存在する風景や事物を感じられるでしょう。身体というメディアを介することにより、現実と非

現実との境界を移動し、ありそうでありえない世界、もう一つの世界を感じることができるのです。作品は、アーティストの中に存在する記憶や感動が自身の心や身体を通してある文脈に集められ、一つの物語として形作られた世界です。アーティストの心、身体、精神、彼らが過した時間を経て存在する物語、それを自分自身の体験とすること、自身の記憶として思い起こすこと、それは鑑賞者自身の分身を創り出すという創造的で積極的な行為と言えるでしょう。

イメージの世界のただ中で感じ、想うことは何でしょうか。⌞現実であると同時に非現実的な場面を体験し、日常では忘れていた自分自身を離れ、⌞作品が語る世界に飛び込んでみてはいかがでしょうか。

フォーエバー現代美術館  
チーフキュレーター 加藤 淳